

ようこそ

読書の森へ

2013 クリスマス特別 PDF 版
(2013 年 12 月 2 日更新)



発行：東洋英和女学院大学図書館
Email: libweb@toyoeiwa.ac.jp

今回はクリスマス特別版ということで、クリスマスにちなんだ本を中心にご紹介♪

[表紙画像をクリックして頂くと、BookWeb 商品詳細（あらすじ、目次など）をご覧頂けます。](#)



『あしながおじさん』ジーン・ウェブスター作；谷口由美子訳（岩波書店、2002.2）

おそらく本を読んだことがなくてもあしながおじさんという言葉は誰でも一度は聞いたことがあるでしょう。孤児院で育ったジュデイは名前も顔もわからない“あしながおじさん”の援助を受けて大学に進みます。

月に一度大学生活を手紙に書くことを条件として。

特にクリスマスにちなんだ本ではありませんが、「どんな子どもも愛情を持って育てられ、教育を受ける権利がある」というこの本のメッセージ自体が子ども達に贈るクリスマスプレゼントとも言えます。

翻訳はいくつも出版されていますが、筆者が読んだ本の訳者、谷口由美子さんの過不足ないあとがきは豊かな余韻を与えてくれます。

（図書館スタッフ 鷺谷由美さん）



『かのこちゃんとマドレーヌ夫人』万城目学著（角川書店、2013.1）

この本は一匹の猫と一人の少女の穏やかな日常と、静かな別離の話です。猫の夫人には犬の夫、かのこちゃんにはすずちゃんというお友達がいます。夫人は夫と落ち着いた会話を、かのこちゃんはすずちゃんと新鮮な言葉を交わしていきます。

ページには美しい言葉が溢れています。ですが、最後にはそれぞれ死別と転校という、避けられない別れに立ち尽くします。

本当のファンタジーは日常の中に潜んでいることを感じさせる一冊です。

（人間科学科4年 内田弘美さん）



『くつやのまるちゃん』トルストイ(原作)；かすや昌宏絵；渡洋子文（至光社、c1984）

今年のアドベントは12月1日に始まります。イエス・キリストの降誕を待ち望むアドベント。私たちの前にも、イエス・キリストは来るのでしょうか。この本には、サンタクロースもプレゼントも、クリスマスらしいものはありません。でも、クリスマスっていったい何だろうと考えることができると思います。

「明日、行くから待っておいで。」という声が聞こえた時、私たちは気づくことができるのでしょうか。

（図書館スタッフ 杉森尚子さん）



『クリスマスおもしろ事典』
同タイトル刊行委員会編
(日本キリスト教団出版局,
2003.10)

文字通りクリスマスの雑学本。クリスマスにまつわる知識が詰め込まれています。

クリスマスにゆかりのある人、用語、動植物、グルメなどなど……。思わず目をとめてしまう面白い内容が満載です。

楽しい気分でクリスマスを待つ今の季節のお手元に、ピッタリの本です。

(大学院図書室スタッフ 横田博夫さん)



『クリスマス・キャロル』
ディケンズ[著]；北川悌二訳
(三笠書房, c1971)

みなさんもよくご存知の物語です。

強欲で、冷たい心のスクルージに、クリスマスの夜 3 人の訪問者があらわれ不思議なできごとがおこります。

そして、スクルージはどうするでしょうか。

原文に、忠実に訳してあるこの本をもう一度読み返してみませんか？

(図書館スタッフ 石沢治子さん)



『クリスマスの起源』
O・クルマン著；土岐健治・
湯川郁子訳
(教文館, 1996.11)

前半はクリスマスがイエスキリストの生誕を祝う日として 12 月 25 日に定着する前までの経緯、後半はクリスマスツリーの起源をまとめた本。

神学者による学術的な考察によって記述されていますが、分量もさほど長くない、クリスマスの基本をおさえるにはちょうど良い本です。

(大学院図書室スタッフ 横田博夫さん)



『クリスマスの悲劇』
アガサ・クリスティほか[著]；
長島良三編
(角川書店, 1978.11)

この本にはクリスマスをテーマにした短編が 19 作収録されています。

どれもとても面白い作品ですが、中でも皆さんにお薦めしたいのはタイトルにもなっているアガサ・クリスティ著の『クリスマスの悲劇』です。

ミステリーで有名なクリスティの書くクリスマスとは？悲劇とは一体何か？

明るく華やかなクリスマスからゴシックなものまで様々なクリスマス・ストーリーが楽しめます！

興味のある方は是非読んでみて下さい！

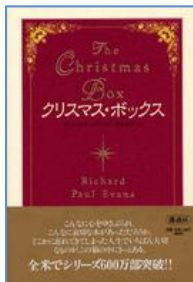
(人間科学科 2 年 大豆生田茉莉花さん)



『クリスマス・バス』
メロディー・カールソン著
大井洋子ほか共訳
(バベルプレス, 2009.12)

この物語ではアメリカ北西部にある「クリスマス谷」の「牧人の宿」を舞台にして、様々な宿泊客によって出来事が繰り広げられていきます。おせっかいが過ぎる風変わりな老婦人、カラフルなおんぼろバスでやってきた若いカップル…。心温まるクリスマスを過ごしたいと願う宿の経営者・イーディスのささやかな願いとは裏腹に、次々と巻き起こる事件の数々。けれども読み終えた後にはやさしい気持ちになれるかも…かもしれません。

(人間科学科2年 押田愛さん)



『クリスマス・ボックス』
リチャード・P・エヴァンス著；
笹野洋子訳
(講談社, 1995.12)

主人公リチャードは、忙しくて娘に構ってあげられません。ある日、リチャードは、中は空っぽなクリスマス・ボックスを見つけます。そのボックスから、音楽が流れていました。そしてリチャードは、不思議な問いを投げかけられます。「クリスマスの最初の贈り物は何だかわかる？」とても優しく、温かい物語です。クリスマスの楽しみが一層広がる気がします。2冊の続編があるので、そちらもぜひ読んでみてください。

(人間科学科1年 丹羽晶子さん)



『島田荘司読本』
島田荘司編
(講談社, 2000.7)

島田さん好きなら外せない本です。島田さんといえば御手洗シリーズ、吉敷シリーズの大きく2つが人気ですが、どちらかに偏ることなく主要の登場人物の紹介が書かれています。

また、読本ということで今までに出版された全ての本の紹介と解説がされ、ファンだけでなくここからいろいろな本に手を伸ばしたくなります。

ああ、時間が欲しいです。

(人間科学科2年 大島悠実さん)



『太陽の塔』森見登美彦著
(新潮社, 2006.6)

1年前のクリスマス直前に失恋し、その痛手をこじらせ中のある男子大学生。クリスマスで賑わう世間を「クリスマスファシズム」、「京都の冬を一段と冷たくし、多くの人間に無意味な苦しみを与える、厚顔無恥の大騒ぎ」等々、ありとあらゆる言葉でののしる始末。

そして彼の周りには、やはり似たような仲間たちと共に、何やら可笑しい抵抗を仕掛けていきます。

クリスマスだからと言って浮かれるご予定のない方、せめてこの本で笑って頂ければと思う次第です。

(図書館スタッフ 青山史絵さん)

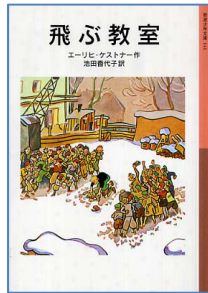


『つめたいよるに』江國香織著
(新潮社, 1996.6)

この短編集には「とくべつな早朝」という、ある大学生のクリスマスが描かれた本当に短い作品がはいっています。

クリスマスって何で特別な日という感じがしてしまうのかな、なんてふと思ってしまいました。クリスマスはクリスマスらしく過ごしても、そうでなくても、やっぱり多くの人にとって“なんとなく特別”で“なんとなく幸せに過ごしたい日”なんだろうなと感じます。

(人間科学科4年 字引結子さん)



『飛ぶ教室』
ケストナー作；高橋健二訳
(岩波書店, 2007.11)

毎年クリスマスが近づくと読みたくなる物語です。舞台は少年たちが暮らすドイツの寄宿学校。タイトルの「飛ぶ教室」とは、作中に登場するクリスマス劇のことです。友情、正義、ためいき、涙、約束、勇気等、多くのことを少年たちは学んでいます。

“大人の涙より重たい子どもの涙もある”と語る作者は大人と子どもを区別しません。そのやさしい眼差しに、読んでいて胸がいっぱいになります。

ぜひ、子どもの頃を思い出しながら読んでください。

(図書館スタッフ 池上道代さん)

※ タイトルの五十音順に掲載しました。

WELL クリスマス企画のお知らせ

今年のクリスマス企画は3つ

I.ブックトーク(読書会)

☆ おいしいお茶とお菓子、お弁当を食べながらクリスマス本をテーマにおしゃべりしましょう!

日時: 12月6日(金) 12:30~13:00 場所: 3号館学習サポートセンター(スタディカフェ)

II. WELL Cafe : 5号館出張図書館

☆ おいしいお茶とお菓子でおもてなしします。おススメのクリスマス本も用意しておきます。

日時: 12月9日(月)~11日(水)のお昼休み

場所: 5号館コンビニ前メープルホール付近

III. 展示

☆ クリスマスに関する本をたくさん展示します。

日時: 12月2日(月) ~12月24日(火) 場所: 図書館1F レファレンスカウンター前

クリスマスの本と一緒に盛り上がりませんか?

申込みは不要です。お気軽にご参加ください。

ご不明な点は bookclub@toyoeiwa.ac.jp まで